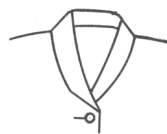


⑤ テーラーカラー

(折り返り線が形づけられている衿)



⑥ ショールカラー (見返しが一枚続きの衿)



(11) スカートのフォーム

- ① ストレート ② バイヤス ③ ベル ④ ドーム ⑤ ホップル ⑥ ティアード





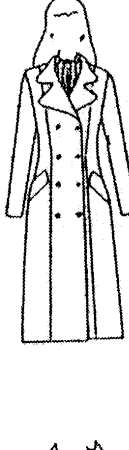




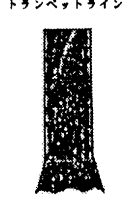


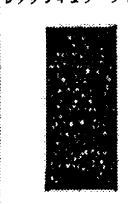







(12) パンツのフォーム

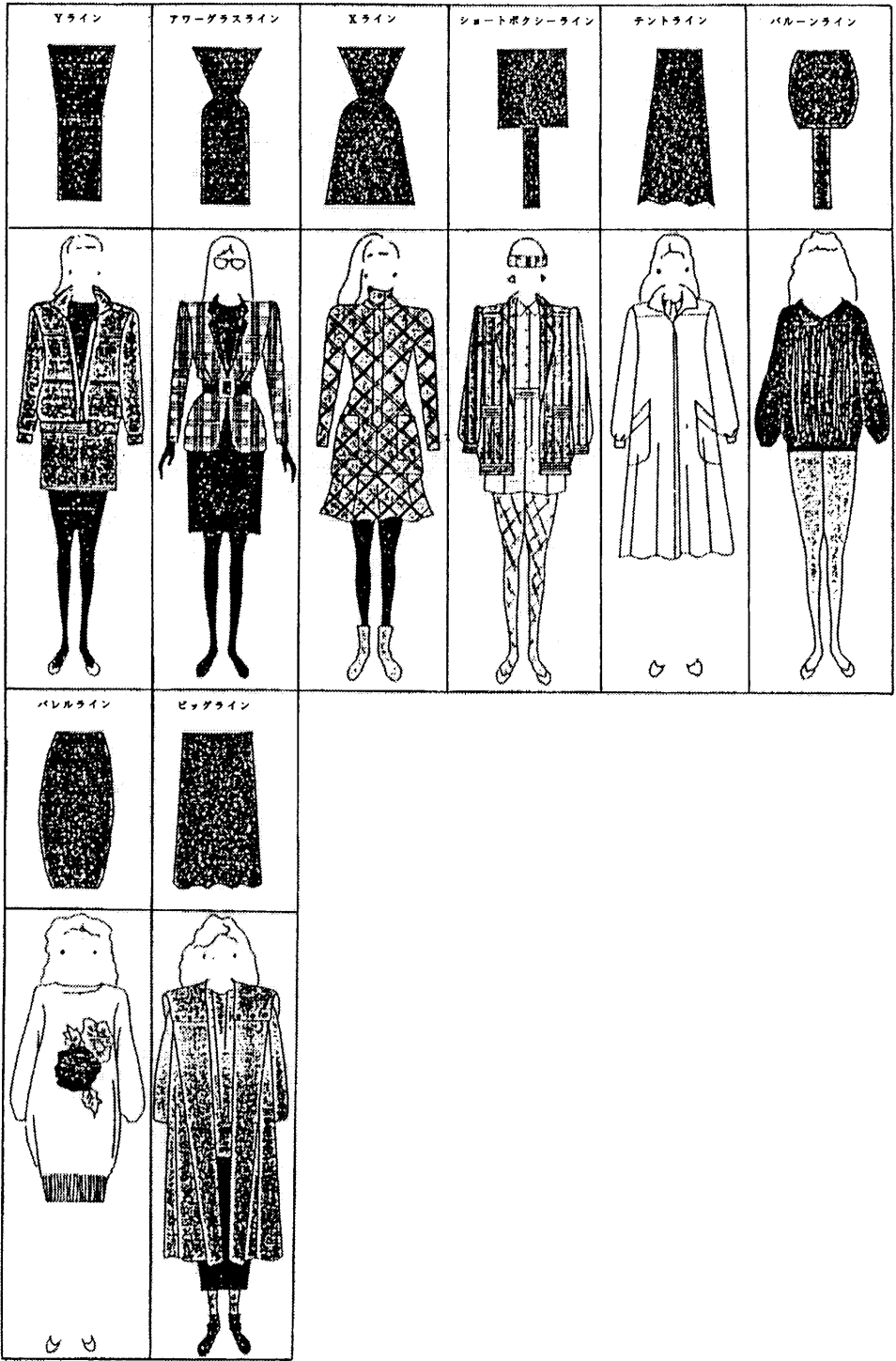
- ① ストレート ② フィット ③ バイヤス ④ ベルボトム ⑤ ズアープ



以上洋服を構成するための一般的シルエット、各部のフォームについて図解しました。デザイン画を理解する上の参考とし、これらの基本的フォームのバランスを良く見極めてパターンメイキングに入ると効果的です。

II シルエットラインとその名称

スリムライン	フィット&フレアー	プリンセスライン	タートルライン	ナチュラルライン	ストレートライン
					
					
					

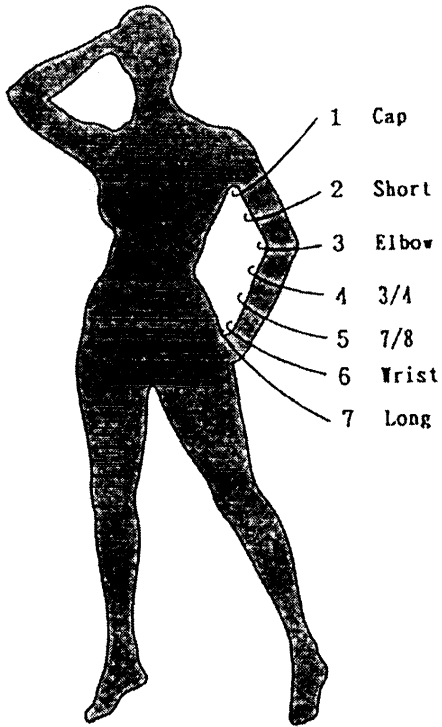


千村典生著

「ファッションコーディネート」

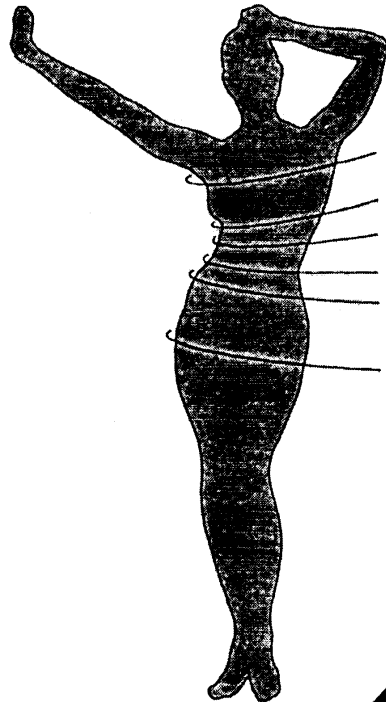
より転載

III 袖丈と名称



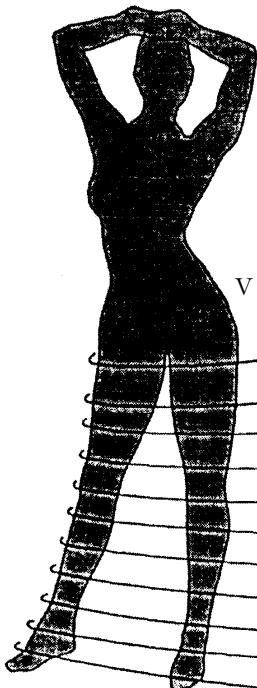
- 1 Cap
- 2 Short
- 3 Elbow
- 4 3/4
- 5 7/8
- 6 Wrist
- 7 Long

IV 横の切り替え位置と名称



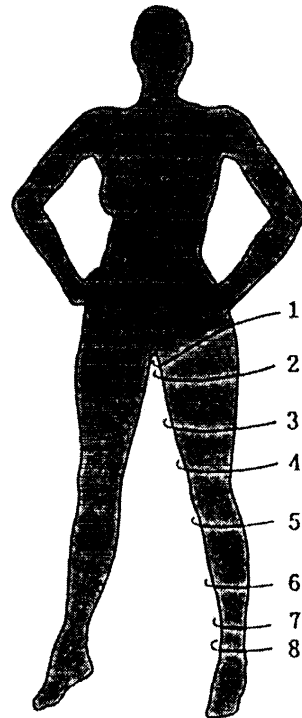
- 1 Yoke Level
- 2 Empire Level
- 3 High Waistline
- 4 Normal Waistline
- 5 Dropped Waistline
- 6 Long Torso

VI パンツ丈と名称



V スカート丈と名称

- 1 Micro Mini
- 2 Mini
- 3 Short
- 4 Above the Knee
- 5 Knee
- 6 Over the Knee
- 7 Mid Calf
- 8 Midi
- 9 Long/Granny
- 10 Full/Evening
- 11 Floor/Formal



- 1 Bikini
- 2 Short Shorts
- 3 Jamaica Shorts
- 4 Bermuda Shorts
- 5 Deck Pants
- 6 Pedal Pushers
- 7 Capri
- 8 Slacks

Ⅶ デザインの把握

(1) イメージの数値化（シルエット・ディテール分析）

(2) デザイナーとのコミュニケーション

デザインイメージの確認。

パターンメイキング上の問題点の検討。

縫製上の問題点の検討。

良きパートナーとしての信頼関係を築く努力。

(3) 素材の把握（参照P 312 II 素材特性とパターンメイキング（製品設計））

① 品質と素材特性

デザインイメージを大きく左右する素材の持ち味を、更に効果的に表現するために、パターンと仕様を素材にマッチさせなければなりません。従って事前に可能な限り、素材のデータを入手して、数字上の特性と実際の素材の動きを確かめておきます。

② 生地幅

生地幅を意識した分量設定や切り替え線の構成は、コストダウンに繋がります。

(4) 副資材の把握（参照P 324 第2章 副資材）

① 肩パット

シルエットを出すための大切な要素になります。

② 釦

素材とのマッチング及び、物性面の把握をします。

(5) パターン作製技術（参照P77 パート2 製品設計）

① 技法の選択力

各種技法を熟知することにより的確な技法の選択ができて、効率良く精度の高いパターンメイキングが可能となります。

② バックナンバーパターンの効率的な活用

シルエットを大きく変えない場合、既存パターンは、量産化された結果まで確認されているので、修正箇所や変更の方法が分かりやすく、パターンメイキングの生産性からも活用のメリットとしては大きくなります。

③ スローパーの活用

スローパーを理解し、スローパーの的確な選択をします。

④ バランス感覚を養うことの重要性

形や大きさを的確に表現する感覚と技術力を習得します。

⑤ パターンの展開方法の正しい理解

⑥ ドレーピング技術の習熟

⑦ 素材への対応性

素材の持ち味を生かし、欠点を補うためのパターン設計を工夫します。

⑧ フィット性と機能性

人体のメカニズムと運動による変化を知っておきます。

(6) プロダクションパターン化

プロダクションパターンのあり方を理解しできるだけそれに近づけておくことは、ファーストサンプルの時点で製品化に備えての仕様設計の確認ができるために、仕様設計技術の精度をより高めることができます。

① パターンチェック ② 縫い代付け ③ 裏地パターン作製 ④ 縫製仕様書の作成

(7) 縫製の知識

① プライスゾーンに合った縫製工程の理解をします。

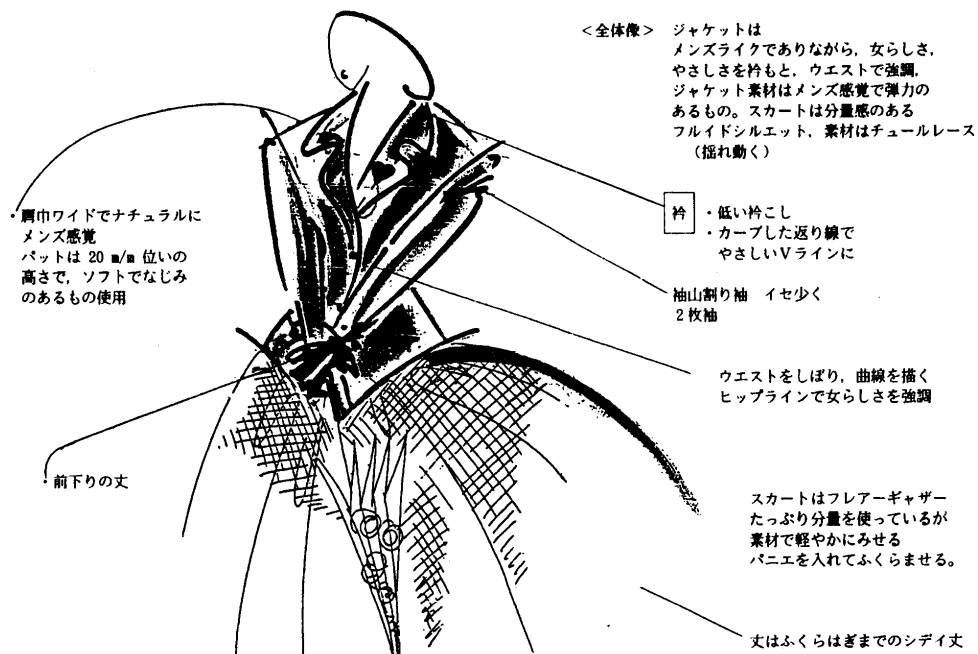
VIII パターンメイキングへのアプローチ（具現化の手順）

(1) 正確なデザイン画に置き換える

デザイナーより提出されるデザイン画が、モード画的であったりイラスト的なもの等で理解の難しいことがあったり、デザイナーの技量の違いや個性、くせによって表現方法やプロポーションのとらえ方も一定していないために、パターンメーカーは受け取ったデザイン画を自分なりの正しいプロポーションに置き換え、イメージを数値化して理解に努めるようにします。

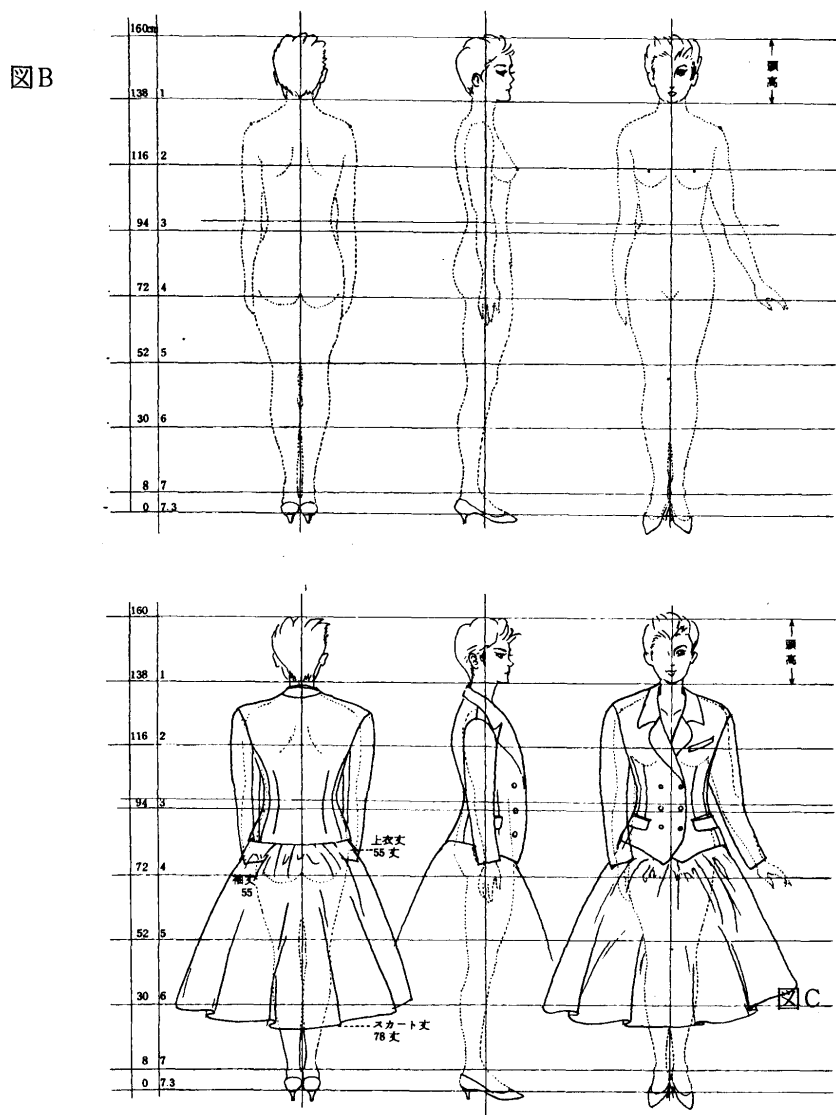
① まず、提示されたデザイン画からデザインイメージを感じ取り、デザイナーに確認を取りながら、ラインやシルエットのねらい、強調したいデザインポイント等について、絵型に注釈を記入しておきます。

(図A)



転載「アパレル研究15」より

② 次に着丈、袖丈、肩幅、ウエスト等の概略の数値を把握するための準備として、人体前面、側面、後面のプロポーション画（図B）を用意します。



転載「アパレル研究15」繊維工業構造改善事業協会

アパレル産業振興センターより

③ 可縫製を考慮した上で、図Aのデザイン画の構造線を明確にし、図Bのプロポーション画を下敷きにして、前面、側面、後面を出来るだけ詳細に、数値のつかみやすい絵型に置換えます。

なお、このとき再度デザイナーと打合せをして、全体のバランスと共にデザインディティールのバランスの確認をしておきます。

●パターンメイキングの技法がいずれの場合でも、最初は半身で組み立てて形を確認し修正をしますが、最終的には、両身組み立てによる試着確認まで行っておくことによって、サンプルアップ後の修正は確実に減少します。ひいては、パターン及びサンプルの精度アップにもつながることになります。

●利用した原型及び既存パターンの整理ナンバーは、新しく作られるパターン袋に明記して、次に使用する人に分かりやすくしておきましょう。